



## 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 に向けた取組み Vol.2 「東京メトロの変遷」

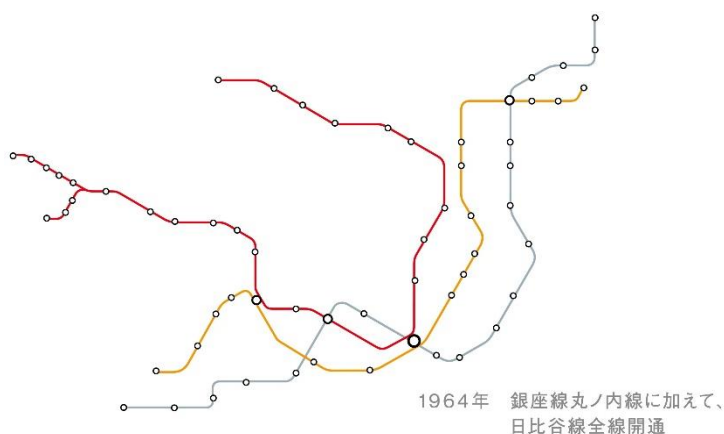
前回、東京でオリンピック、パラリンピックが開催された1964年に比べ、オリンピック、パラリンピックの大会規模が大きくなるとともに、東京の地下鉄ネットワークも拡充し、開催都市の交通インフラである東京メトロに寄せられる期待も大きくなりました。今回は、東京2020大会に向けた東京メトロの取組みを、1964年時と比較しながらご紹介します。

東京メトロは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)です。

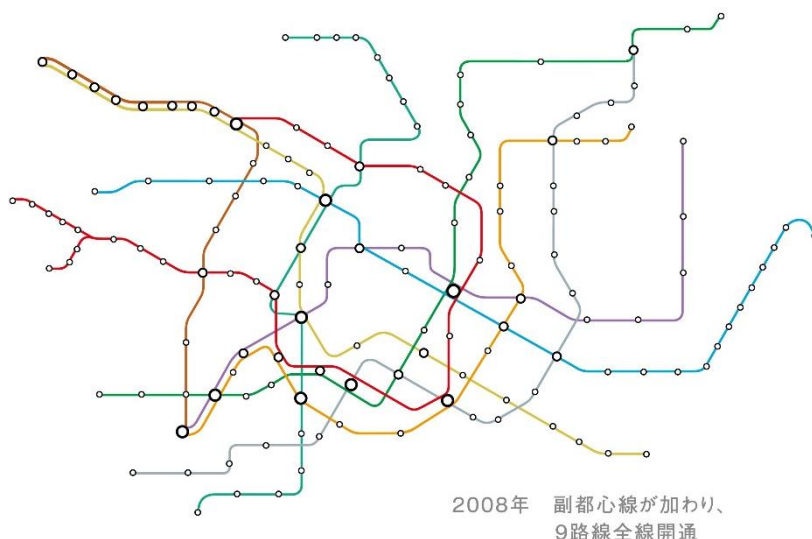
### ◎1964年と2020年にみる東京メトロの変化

項目	1964年	2020年	1964年との比較
路線数	3路線 (銀座・丸ノ内・日比谷) ※1964年10月1日	9路線 (銀座・丸ノ内・日比谷・ 東西・千代田・有楽町・ 半蔵門・南北・副都心) ※2018年度末	+6路線(3倍)
営業キロ	62.0キロ (相互直通運転区間含め 92.3キロ) ※1964年10月1日	195.1キロ (相互直通運転区間含め 550.9キロ) ※2018年度末	+133.1キロ(約3.1倍) (相互直通運転区間 +458.6キロ(約6.0倍))
一日平均輸送人員	170万人 ※1964年度	758万人 ※2018年度	+588万人(約4.5倍)
駅数	66駅 ※1964年10月1日	179駅 ※2018年度末	+113駅(約2.7倍)
訪日外客数(年間)	35万人 ※1964年	3,119万人 ※2018年	+3,084万人(約89.1倍)
東京圏(1都3県)人口	2,000万人 ※1964年10月1日	3,600万人 ※2019年4月1日	+1,600万人(約1.8倍)

(1964年時点路線図)



(2019年現在路線図)



## ◎1964年、2020年を見据えた設備、サービスの变化

## 1964年

## ・自動券売機

当時ではまだ珍しかった自動券売機を1956年より新橋駅、銀座駅で導入しました。



## ・特別案内所

大会期間中、銀座駅3か所、浅草・渋谷・池袋・新宿の各駅1か所ずつ、英会話要員を配置しました。銀座駅1か所では、大会終了後も「地下鉄案内所」としてお客様のご案内を行いました。



## ・日比谷線の全線開業

銀座線、丸ノ内線に次ぐ営団地下鉄3番目の路線として、1964年8月に日比谷線が全線で開業しました。



## ・銀座線の増発

大会期間中、休日には銀座線の運行本数を5割増しにするなど輸送力の増強で対応しました。



## 2020年

## 世界トップレベルの安心でお出迎え

## ・ホームドアの整備

お客様のホームからの転落事故や列車との接触事故を防止するため、東京メトロでは2025年度までの全路線全駅へのホームドア整備を進めています。なお、2020年夏時点のホームドア整備率は77%（138駅）となる予定です。

## ・トイレの洋式化、多機能トイレの整備

お客様に便利で快適にトイレをご利用いただけるよう駅トイレの改修を進めています。トイレの洋式化及び多機能トイレの整備については、2020年3月末までに東京メトロ全駅での更新が完了する予定です。

## 地下鉄を分かりやすく快適に

## ・駅構内、車両内無料Wi-Fiサービスの提供

東京メトロ全ての駅構内及び保有車両内において、無料Wi-Fiサービスを提供します。

## ・自動券売機

7か国語に対応した自動券売機を東京メトロ全駅に導入しています。また、一部企画乗車券について、QRコードにより発券が可能な券売機を2020年3月末までに導入します。

## ・旅客案内所（多言語でのご案内）

上野、銀座、新宿、表参道、東京、渋谷（東急電鉄株と共同運営）、池袋（2020年度開設予定）駅の旅客案内所では、英語・中国語で対応可能なスタッフを配置し、ご案内を行っています。その他の多言語でのご案内状況については、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組み Vol.1「多言語でのご案内」  
[https://www.tokyo-metro.jp/corporate/newsletter/metroNews20190312\\_173.pdf](https://www.tokyo-metro.jp/corporate/newsletter/metroNews20190312_173.pdf)をご覧ください。



## 沿線地域との連携、東京を楽しく

## ・日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」供用開始

1964年の日比谷線全線開業以降で初めてとなる新駅の供用開始を東京2020大会前に予定しています。

## 大会期間中の輸送対応

## ・列車増発と終電の繰り下げ

各競技の開催場所や開催時間等に対応した列車の増発と終電の繰り下げを行います。

## ・会場最寄駅でのご案内の充実

駅員・警備員等の増配置や自動改札機の増設等を実施し、円滑なご利用に向けたご案内の強化を図ります。

## ・TDM推進への参画

混雑緩和施策を積極的に実施します。